

|   |   |
|---|---|
| <p><b>【技術の名称】</b><br/>                 大林・3M・AGC式粘弾性ダンパー<br/>                 -粘弾性体とガラスを用いた透明制振壁-</p> | <p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第08-19号<br/>                 性能証明発効日：2009年1月13日</p> <p><b>【取得者】</b><br/>                 株式会社大林組<br/>                 住友スリーエム株式会社<br/>                 AGC 硝子建材エンジニアリング株式会社<br/>                 (現：AGC 硝子建材株式会社)</p> |
|---|---|

**【技術の概要】**

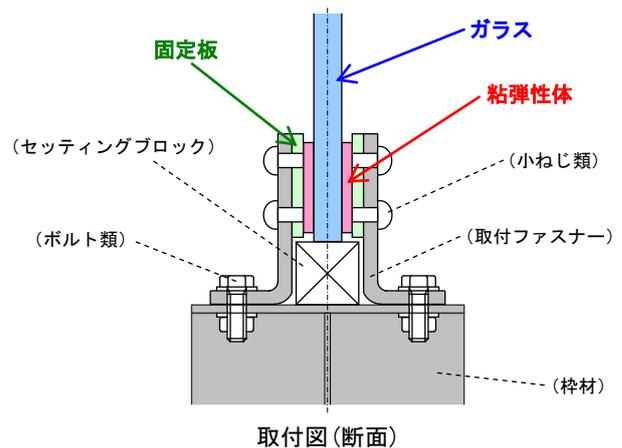
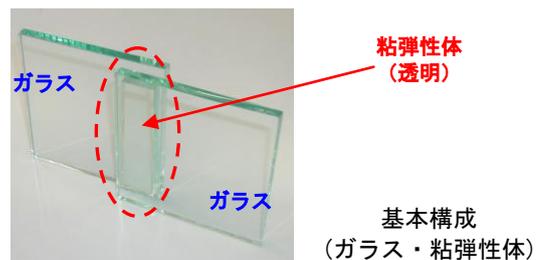
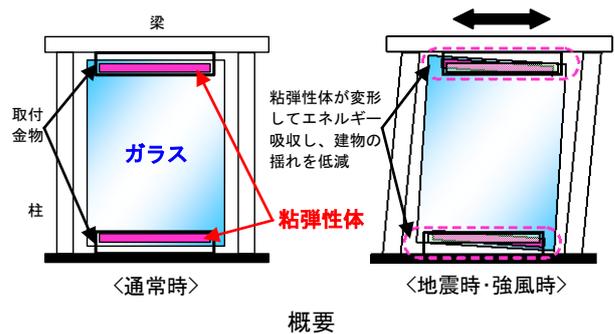
本技術は、ガラスとその周辺に配置する粘弾性体および固定板で構成される制振壁（大林・3M・AGC式粘弾性ダンパー）に関する技術であり、本粘弾性ダンパーはガラス制振壁と略称される。本技術に用いるガラスは、JIS規格に適合したフロート板ガラス、合わせガラス、倍強度ガラスであり、粘弾性体は、自己接着性を有し、ガラスと固定板に容易に接着できる住友スリーエム株式会社製の ISD111 である。ガラス制振壁は、固定板と取付ファスナーを介して建物内の構造部材に接合され、地震あるいは強風によって建物に生じる振動エネルギーを吸収する。本技術によるガラス制振壁は、原則として既存の木造建物や鉄骨造建物の耐震補強に適用する。

**【技術開発の趣旨】**

本技術は、視覚的に美しく透明性の高いガラスの意匠上のメリットを活かしつつ、地震あるいは強風に対して、優れたエネルギー吸収能力を有する粘弾性体を用いた制振壁の実現を意図して開発されている。

**【性能証明の内容】**

申込者提案の大林・3M・AGC式粘弾性ダンパーに用いる粘弾性体は、設計要領に従って算定した貯蔵せん断剛性および損失係数を有し、大林・3M・AGC式粘弾性ダンパーは、設計要領に従って算定した等価剛性、等価減衰係数および履歴ループを有すると判断される。



**【本技術の問合せ先】**

|   |   |  |
|---|---|--|
| 株式会社大林組<br>〒204-8558 東京都清瀬市下清戸 4-640<br>住友スリーエム株式会社<br>〒158-8583 東京都世田谷区玉川台 2-33-1<br>AGC 硝子建材株式会社<br>〒110-0015 東京都台東区東上野 4-24-11 | 担当者：奥田浩文<br>TEL：042-495-1013<br>担当者：所 健<br>TEL：03-3709-8468<br>担当者：福田光夫<br>TEL：03-5806-6604 | E-mail：okuda.hirofumi@obayashi.co.jp<br>FAX：042-495-0904<br>E-mail：ktokoro@mmm.com<br>FAX：03-3709-8753<br>E-mail：mitsuo-fukuda@agc.co.jp<br>FAX：03-5806-6531 |
|---|---|--|